

松江

カルシュ先生撮影の 風物写真50点を展示

島根大旧奥谷宿舎

大正末期から旧制松江高校（現島根大）で教壇に立ったドイツ人哲学者、フリッツ・カルシュ（1893

〜1971年）が松江の風物を撮影した写真が、松江市奥谷町の島根大旧奥谷宿舎で展示されている。大橋川の四ツ手網漁の様子など

フリッツ・カルシュが残した写真に見入る女性



を切り取った約50点が来場者の関心を集めている。7月1日までの土日祝日のみ開催する。

地元有志らでつくる顕彰会が企画した。カルシュ研究の第一人者で、同会代表の若松秀俊東京医科歯科大名誉教授、千葉県我孫子市

在住が管理する写真を展示。船神事「ホーランエンヤ」や、松江城天守から眺める町並みの写真が往時の雰囲気伝える。島根大4年の北村美月さん(22)は「学生とカルシュ先生が一緒に写った写真が多い。学生が先生から何かを学ぼうとした表れだろうか」と話した。

（陰山篤志）